

イギリスの核増強に抗議する

核兵器廃絶・平和建設国民会議
(略称：KAKKIN)

3月16日、イギリスは核抑止力を強化し、ロシアが目指す核兵器の近代化や中国の軍拡に対抗する方針を発表した。具体的には保有する核弾頭の中で、運用状態にある核弾頭の上限を180発から260発に引き上げるとしている。世界的に核兵器廃絶の機運が高まりつつある中で、この発表は到底容認できない。

スウェーデンのストックホルム国際平和研究所によると、イギリスは総数でピーク時に約500発の核弾頭を保有していた。冷戦終結後、徐々に削減し2020年1月時点では215発になっているが、ここにきて核増強に政策を転換する。あわせて唯一の核弾頭運搬手段である潜水艦の更新も行う方針という。

理由についてイギリスは、ロシア、中国を念頭に置いて安全保障を巡る環境が変化しているためとしている。その一方で、欧州連合（EU）を離脱したことから、核増強の宣言には外交的な存在感を高める狙いもあるとみられる。

イギリスは米国、ロシア、中国、フランスとともに、核兵器不拡散条約（NPT）により核を持つことを認められた国だ。そしてこの条約は各締約国に対して誠実に核軍縮を行う義務を課している。イギリスが核戦力の増強に政策転換することは、条約の精神に背くものであり断固抗議する。

以上

